「日本」の転換期の今。

「介護保険」が始まって１５年目。家族構成が「核家族」になり家族介護から、介護の社会化と言うふれこみで始まった「介護保険」が今年４月から「介護」は＜地域＞で＜在宅＞へとハンドルを切った。「核家族化」が進み、家族の「介護」を一人で担う家庭が多くなり、老々介護、独居者も多くなっている。自分の身近に「介護」が無ければ、自分の身に降りかからなければ「他人ごと」でもお元気だった親御さんの介護がはじまったり、「若年性認知症」として介護対象になる方々が４０代、３０代になってきている現実・・・自分が「介護者」になったり「介護」を受ける身にならない保証はないです。

「介護保険」がスタートした頃、左半身マヒで認知症状のある父親の介護をしていた。在宅で看取った後、西宮市内で介護を受ける本人や介護者、介護職、医療者、行政、社協、学生、地域活動者、子ども、子育て中のママ、マスコミ関係者・・・立場を越え誰でもがごはんを共に食べながら“想い”を吐き出し、情報交換の場、＜まじくる＞「つどい場さくらちゃん」を始めさせていただいて１２年目、多くのひとたちと触れ合うなかで、「制度」によって大きく変わったと感じることがある。

「介護」の「福祉」が「産業」になり、家族のお任せ体質に拍車がかかった。かつて介護は家族が引き受けるしかなく、在宅介護が当たり前だった。しかし、それを支えるシステムがあった。脳疾患等で入院すれば、在宅で生活できるように、日数をかけて、本人や介護者にリハビリを指導しそれでも無理なら、「介護老人施設(老健)」で３か月ほど在宅復帰のためのリハビリを行ったり、保健師が家族のサポートに自宅を訪れていた。

ところが、制度が始まると、ほぼ、「事業所」に属する「ケアマネジャー」が誕生し「お任せ体質」に拍車。介護を受ける本人の想いよりも家族の意向を重視する「計算屋」になって「施設」に捨てるを勧める。「福祉」が「産業」に変貌。もちろん「良質な施設」「良心」を持つ「介護職」はいます。しかし、「現場」に居ない、「職員」の教育にカネと時間をかけない「介護」を「作業」に終わらせ、腐らせている＜経営者＞がはびこり過ぎ、収入源が「介護保険料」という特殊な業界に企業努力等の危機感も感じられない。

一方で、街中や自宅から高齢者が消えた。昔から年寄りは居ました。年相応に“ボケ”て家の中を這いまわり、手づかみで食べ、近所の市場・公園に年寄りはしゃべってました。

制度が始まると朝に夕に「ラチ車＝送迎車」(本人が選んで、喜んで行ってる場合が少ない)が街中走りまわり「安心」「安全」を謳う「介護施設」に送り込まれ、歩けるひとも転倒を恐れ、車イスで過ごされ、自由が無い。

「ボケ」「痴呆」という言い方が普通だったのが２００４年３月の「日本老年医学会」での「差別的」であるとの問題提起を受け、厚生労働省老健局が２００４年１２月２４日から行政用語を「認知症」に変更。この「症」が付けば「症状」の「症」なので、「病気」。そこから「早期発見」「早期治療」を促されてきた感があります。＜薬＞とは無縁だった高齢

者に「進行を遅らせると」というあやふやな言い方で、すがる思いの家族が医師処方の薬を飲ませ始めたのでした。１２年前から始めさせてもらった「つどい場さくらちゃん」に来られる介護者・介護職の方々から、＜くすり＞＜徘徊＞という言葉が盛んにきかれるようになり、いつも＜？＞＜？＞の連続でした。そもそも、＜徘徊＞という言葉もヘンです。「当てもなくうろつく」とありますが、本人は、「会社へ行かなあかん」「子どもたちが帰ってくるのに晩ご飯の買い物行かなアカン」理由があって飛び出し途中でわからなくなっている「迷子状態」。＜薬＞を飲んだ後、形相が変わり幻覚が見え興奮して飛び出す・・・等、本人をちゃんと観察できる家族はその変化をキャッチして、医師に伝え飲ませるのを止めて元通りに落ち着いたと何人もの家族から聞いています。

「高齢者」とくくられている方々の身体的変化は、目は見づらく、音は聞きづらく、瞬時の運動機能も落ち・・・それが「加齢」。「頭」の中の機能も落ちるのが自然。。しかし、世の中こぞって加齢によるもの忘れと「認知症」は違う・・・早期発見・早期治療＝薬投与。自分の中の変化は自分が一番わかっていらっしゃいます。その不安を身近な大切な家族にこそ知られまいと、心配かけたくないと「取りつくろう」のです。高齢になると、自分の状態を正しく伝えることができにくくなる、その方々への多剤投与はいかがなものか。伝えられない本人の「人権」を守り代弁するものは＜家族＞です。医師に伝えないと・・・高齢になっていろんな「科」を受診すれば必ず＜薬＞がセット、年齢・体格・排出機能差に関わらず同じ１錠・・・ヘンだと思う。臓器別に細分化、専門分化されている今の医療に高齢者は合わない。ひとりのからだを総合的にみてくれる「科」＝「高齢科」が必要では？

みなさん、＜不安＞なんです。自分が＜不安＞なんです。そこで必要なのは、＜安心＞できる＜ひと＞がそばに居てそっと手をにぎってくれて「大丈夫だよ」の声かけだと思います。けっして「向精神薬」ではないです。「薬」で興奮しての暴言・暴力・飛び出し・・・「介護施設」はほとんど受け入れてくれない、困った家族の選択肢が「精神病院」・・・

これこそ「認知症」といわれているひとたちの「人権」は何処へ！！住み慣れた地域からの排除をするのも＜ひと＞。長生きすることは少し前まで「めでたいこと」だったはず・・・今後、超高齢化社会を迎えるのに、一人づつが利口になり、伝える力を持たないと「お任せ体質」ではその先に倖せ、平和は来ないと思います。

「介護保険」は誰をしあわせにしたのだろう？逃げないで「介護」と付き合うと深い・・＜人生＞そのものなのに。